

# 光葉ワーキングクラブメールマガジン

<2018年4月号>

133号 2018.04.02 配信

学園の桜も開花し、いよいよ春を迎えました。昭和女子大学では、新たにグローバルビジネス学部会計ファイナンス学科が新設されました。

今年度もメールマガジンをワーキングネットワーク委員で配信してまいります。

## ■学園だより

- ・4月2日（月）入学式 大学院・大学合わせて新入生1670名が入学しました。
- ・5月1日（火）創立記念式（創立記念日 5月2日）

## ■同窓会だより

- ◆4月1日発行の光葉同窓会報90号で詳細をご確認ください。  
皆様お誘い合わせうえ、ぜひご参加ください。

### 第45回 光葉同窓会総会のご案内

開催日 2018年5月20日（日）

会場 ホテル日航新潟 4階「朱鷺」

総会 10:30～11:25（受付開始10時）

講演会 11:30～12:30

講演者 昭和女子大学理事長・総長 坂東 真理子

演題 「これからの昭和女子大学

—女性の人生100年時代を生きる力を—

懇親会 13:00～15:00

多数の恩師の方々をご招待します。学生時代を思い出しご来賓や旧友との歓談をお楽しみください。

### 光葉同窓会新潟ツアー 村上瀬波温泉

1. ツアー日 2018年5月20日（日）～21日（月）
  2. 集合場所、時間 ホテル日航新潟
  3. コース ①大観荘せなみの湯、②庭園めぐり、③名産探訪、④酒蔵見学  
⑤割烹新多久にて昼食
  4. 解散場所、時間 JR新潟空港 15:30 JR新潟駅 16:00
  5. 会費 25,000円（宿泊代、入湯料、21日昼食、バス代、ガイド料、保険等）
  6. 申し込み方法 光葉同窓会事務局  
Fax 03-3411-4066 E-mail dousoukai@swu.ac.jp
  7. 申し込み締切日 2018年4月26日（木）必着
- ※ 申し込みされた方には、5月上旬に案内を送付します。

## ◆『食』関連ネットワークのイベント開催報告 2018年3月17日

3月17日34人が参加しました。10時半、タニタ食堂に集合し、日替わり定食（中華風五目煮）をいただきました。ご飯の適量や、野菜をどのくらい食べることが望ましいか等を、美味しく味わいつつ、実体験として学びました。その後、三田の会議室に移動し、2009年食物科学卒業、実践料理研究家の岩木みさきさんに、ご自身の現在までの歩みと今取り組み始めている木桶で作る味噌についてご講演いただきました。和食の中の味噌や酒、しょうゆといった日本古来の食品の背景にある文化の重要性や、味の化学的検証について興味深いお話を伺いました。ご自分で手作り味噌を作っている方や数種類の味噌を日ごろから使っている方々から活発な意見もあり、大変有意義な会になりました。初めて大学以外の会場で実施し、不確定要素が多く心配でしたが、新たな一歩を踏み出せたと思います。

## ■広げよう光の葉

吉岡 浩代さん

1982年 国文学科卒（東京都東南7区支部）

私は短大在学中の2年間、今は閉寮となった緑声舎で寮生活を送りました。卒業後は、科学専門の出版社に就職し、3年務めたのちにいくつかの仕事を経て、20歳代後半から母校の職員になり、緑声舎の寮監として後輩の指導に当たらせていただきました。寮生時代、あれ程嫌だった寮生活がとても新鮮に目に映りむしろ社会に出ると強みになると感じました。親元を離れ規律に基づいた生活は精神面の自立を促し、行動面に責任を持つようになるそう言った観点から寮生一人一人と向き合い、寝食を共にした6年あまりを過ごしました。卒業する時にはまさか自分が将来母校の職員として寮監として戻ってくるとは、夢にも思いませんでした。

在学も2年間で附属出身でもなかった私は卒業後も昭和を肯定的にも否定的にもとらえておらず、愛校心に満ち溢れた卒業生とはお世辞にも到底言えませんでした。実際のところ、社会人になって働いている時には、卒業した学校のことあまり意識しないかもしれません。そんな私が職員になると当然ながら学校側の視点でものを考えて働くのですが、そのあたりから、昭和って実は素晴らしい学校だと深く思い始めました。創立以来先輩方が、教職員の皆様が、綿々と維持発展させてきた重みと伝統でしょうか、目には見えない昭和女子のカルチャーが息づいています。それは卒業生にとって、心地よく、懐かしく、そして、頼りがいのある雰囲気や空気を醸し出してくれるのです。

そんな私に一昨年同窓会の支部のお手伝いの話が舞い込みました。私にはまだ大学生と高校生の娘がおり、かつパートで働いている環境なので、いくら母校のためとはいえ、お引き受けするのを躊躇しました。しかし、これも何かのご縁と思い最低限のお手伝いをしようと心に決めてお引き受けしました。名簿の整理や、総会の準備や連絡など、決して楽ではないのですが、実は当初考えもしなかった楽しさや、喜びを感じるようになりました。メールを送る相手も同窓生、電話をいただく相手も同窓生、そして集まり歓談するのも同窓生。確かにクローズの、ひょっとすると排他的な集団かもしれません。だからこそ信頼関係を築き濃密な人間関係を築くことができるのです。子育てとパートの仕事とスポーツクラブそして同窓会、これらが今の私の生活の柱です。これにシーズン毎の料理教室、忙しい合間に一人でも行く観劇、友人が以前から誘ってくれている登山にも今年は挑戦したいと考えています。

End